



## 釈迦如来（説法印）

こんな話があります。

中国の白樂天がかつて地方の知事として赴任したおり、道林という和尚を訪ねて「いったい仏教とはどんな教えか？」とたずねたことがあります。

その時和尚が「すべての悪い行為をやめ、少しでも善行をして、自己の心を浄化することが仏教の本意である」と答えたら、白樂天は「なんだ、そんなことなら三歳の幼児でも知っている」と言いました。

すかさず和尚は「三歳の幼児も知っているが、八十歳の老人も実行することができないではないか」とつきかえたのです。

仏教は人間として正しい生活をすることによって、自己の心を清めることを説いています。

それが仏教の基本なのですが、そのことを自己の人生において真に実現することは、なかなかむずかしいことではないでしょうか。

でも、むづかしいからといって何もしなければ、永遠に近づいてはいきません。怠ることなく、少しずつでも前向きに進んでこそ可能性が高くなっていきます。

大事なことはまずその方向を向くこと、脱線しながらも怠らず、ゆっくりとでも進んで行くこと。

だれも急によくなることはありません。ぼちぼちとでもいいじゃないですか。皆と一緒になくてもいいじゃないですか。そうです、自分流でもいいじゃないですか。励むしかないのですから・・・